



やさしさあふれる さくら学校

さくらだより

新潟市立内野小学校

令和6年6月号



赤白団結し、美しい「さくら色」となりました

校長 山田 里恵子

5月25日(土)に運動会を行いました。「赤白ともに、最後まであきらめないで、最高に楽しい運動会にしよう!」のスローガンのもと、一人ひとりがめあてをもち、力を合わせ、競技に、応援に、ダンスに、優勝、応援賞を目指しました。「協力する」「全力で取り組む」子どもたちの頑張りで、運動会は大成功でした。

この度の運動会では、子どもたちの「はたらく」「あいさつ」「感謝」の3つの姿が輝きました。

「はたらく」ことの大切さは、5月の全校朝会で伝えました。はたらくとは、「はた(傍)」が「らく(楽)」になることで、皆が進んで働けば、お互いに助かるという意味です。誰かのために進んで働くことは、自分のよさや力を伸ばし、よりよい仲間づくりに繋がります。5・6年生は、応援、ダンス、決審、用具、放送、出発、記録、救護、スローガン、賞品などの係の仕事を行いました。それぞれの役割を考え、責任をもって取り組むことができました。運動会の前日準備では、自分の仕事以外でも、進んで働く姿が見られました。応援、ダンスの担当の子どもたちは、休み時間や放課後の時間を使って、練習を積み重ねました。

「あいさつ」は、年間通して大切にしています。応援合戦とダンスでは、リーダーの後に続き、「お願いします」「ありがとうございました」と大きな声で挨拶し、息を合わせてお辞儀をしました。子どもたちの姿から、優勝を目指し、心を一つに練習を積み重ねてきた一体感と、やり切った満足感を感じることができました。

「感謝」とは、有難いと感じたことを表現するという意味です。閉会式では、代表の子どもたちが、「赤も白も素晴らしかった」「支えがあったからできた」「ついてきてくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝え、とても立派でした。そして、各学級で、誰かの頑張りや自分の成長を支えてくれた周りの人達に目を向けることができるよう、振り返りました。

6月の全校朝会では、大谷翔平選手が高校時代に作成した「目標設定シート」に照らし、運動会での子どもの頑張りや価値付けました。大谷選手は、運を呼び込む行為として、「ごみ拾い」「あいさつ」「審判さんへの態度」などを目標設定シートに書き込んでいます。大谷選手が「人がポイと捨てた幸運を拾っている」とグラウンドのごみ拾いを続ける姿、相手の選手や審判などにきちんと挨拶して感謝の気持ちを表す姿は、まさに「はたらく」「あいさつ」「感謝」の姿です。これからも大谷選手のように、「自分にできることを誰よりも丁寧に、誰よりも一生懸命やる気持ち」を育てていきたいと考えています。

開会式では、子どもたちの発案で、「赤白が団結すると、さくら学校のピンク!」という内容のコールがありました。プログラムが進むにつれ、グラウンドに美しい「さくら色」がたくさん見えたように思いました。

役員の皆様、地域の皆様、運動会の円滑な運営や熱中症対策のテント設置等、ご尽力いただきありがとうございました。これからも、「やさしさあふれる さくら学校」を目指し、教育活動を進めていきます。



<アサガオがぐんぐん大きくなりました～1年生～>

春、1年生は、アサガオの種を植えました。まずは、教室で、種の植え方を学びました。そして、実践です。土を入れ、指で穴をあけ、そこに種を一つずつ入れ、土をかぶせました。ボランティアさんの手を借りながら、丁寧に種を植え、優しく土をかぶせる姿が見られました。その後、毎日、水やりをしています。アサガオは葉の数を増やし、背丈も伸びてきました。子ども達は、水やりや観察をしながら、日々、何色の花が咲くか、楽しみにしています。



<野菜の先生に育て方を教わりました～2年生～>

2年生は、生活科でたくさんの野菜の収穫を目標に、ミニトマト、ピーマン、オクラの中から自分の育てたい野菜を選んで栽培しています。まず、5月にアグリパークで、野菜がよく育つための肥について教えてもらいました。そのたい肥を土に混ぜて、ふかふかの土を作りました。そして、ポットから苗を傷めないように取り出し、植木鉢に植えました。やり方をよく聞き、ボランティアさんに確かめながら、手順に気を付け作業しました。6月には JA から野菜の先生をお招きしました。脇芽の取り方、肥料のやり方、支柱の立て方など、野菜の苗が大きくなるためのコツをたくさん教えていただきました。子どもたちは、野菜の先生の話をよく聞いて、自分たちの野菜の様子と照らしながら学ぶことができました。どの子も実りの時期を心待ちにし、毎日の水やりに励んでいます。



<ikka かぼちゃについて学び、栽培しています～3年生～>

3年生は、総合的な学習の時間で、内野で栽培されている ikka かぼちゃについて学んでいます。ikka かぼちゃは、「一株一果」という意味で、野菜ソムリエサミットを受賞しています。子どもたちは、ikka かぼちゃについて調べ、生産者のすずまさ農園さんを訪ね、栽培について教えていただきました。すずまさ農園さんから、1,800 株育てても 1,300 株しか ikka かぼちゃにならないこと、ミツバチを育て、自然受粉させていることなどを教えていただきました。今、子どもたちは、学びを活かし、学校でかぼちゃを育てています。先日の大風で苗が折れてしまった時、自分ごととして対策を考え、「添え木をするといい!」というアイデアも生まれました。子どもたちの学びが大きく実ることを願います。



<内野の祭りを盛り上げます～4年生～>

6月に、西商工会の田辺信一様をお招きし、内野祭りについてのお話を聞きました。内野祭りは、明治時代から行われていて、昭和時代に、山車や民謡流しなどの形となり、現在は、神輿、山車、露店、民謡流しが主流であることを教えていただきました。子どもたちは、地域が大切に守ってきた内野祭りについて調べ、内野祭りを盛り上げるために、自分たちも参加したいという思いをもちました。自分たちにもできることとして、民謡流しに参加すること、屋台を出すことは可能であるか、と考えました。西商工会に相談したところ、了承していただきました。参加可能な範囲で、子どもたちが自分ごととして参加できるよう、計画を立てています。

